中学校第2回入試を終えて

1月11日(木)、第2回入試が本校とさいたまスーパーアリーナの2会場で実施されました。第1回入試に引き続き多くの受験生を迎えることができ、大変感謝しております。

本日は一段と冷え込みが厳しくなりましたが、そんな中を受験会場へ向かう生徒の皆さんの凛とした後ろ姿を目の当たりにし、これまで育てていただいた保護者の皆様や塾の先生方のご苦勞に、本当に頭の下がる思いがいたしました。

こうした受験生をお迎えできたことは、これからの城北埼玉学園へのご期待と受け止め、そのご期待に応えることができる学校へ更なる成長を遂げるべく、教職員一同、一層身を引き締めて参りたいと存じます。

さて、今回の合格者の皆さん、誠におめでとうございます！本校で共に学べる日々を、今から心待ちにしています。

残念ながら今回十分な成果を上げられなかった受験生の皆さん、壁というのは超えられる可能性のある人にしかやってきません。壁があるときはチャンスだと思ってください。結果が出ないとき、決してあきらめない姿勢が何かを生み出すきっかけをつくります。

最後の最後まで頑張りましょう！

能力は無限、時間は有限
学力は試験当日まで伸びる！
粘れ！輝け！受験生！！

城北埼玉中学・高等学校

校長 森泉秀雄

<入試問題のコメント・講評>

～第2回入試～

【国語】

一 「美南のゴール」

主人公の美南はプレイヤーではなくマネージャー。高校のサッカー部の。しかもインターハイに出場するほどの神奈川県が強豪校。だんだんと主人公のおかれている状況がわかっていくという流れです。サッカーのクラブチームなどに入っていた(いる)人にとっては親しみもてる作品だったと思います。

採点してみて、あまりできていなかった問題の1つは「檜舞台(ひのきぶたい)」という慣用表現についての空欄補充です。「檜舞台」とは「自分の手腕や成果を人々に見せる晴れの場」という意味です。全体としてはとてもよくできていました。

そして、自由記述「あなたが一つの役割を通じて自分が成長したと思える経験」。

作品世界がサッカーだったため、やはりスポーツに関することを書いてくれた人がいました。しかしそれだけではなく、小学校での児童会、あるいは家庭の中での自分の役割。受験生のみなさんがこれまでのいろいろな経験をしてきた、その中で成長してきたことがうかがわれ、読んでいて胸が熱くなりました。

三 「友だち幻想」

漢字の読み書きの問題を挟み、説明的文章は一転して「同質性を前提とする共同体の作法から、自覚的に脱却しなければならない時期だと思います」。少し難しめな文章・内容の文章から出題しました。

採点して、できている人と、そうでない人の差が少しあったような気がします。本文を読みながら、何が書いてあるのかよくわからないなあ、と思いながら解答していた人は、ぜひもう一度、読解に挑戦してみてください。

なお、「適当でないものを選びなさい。」という設問を作りました。正答率を見ると正解の割合が1番多かったのですが、誤答を見るとばらばらでした。設問を正しく読み取るということはとても大事なことです。

最後に

今日も寒い1日でした。連日の受験で疲れた人も多いと思います。どうか体調を崩さないよう、そして皆さんの力がこの先存分に発揮されるようお祈りしています。私たちはみなさんひとりひとりを心から応援しています。

【算数】

1 小問集合です。

いずれの問題もオーソドックスな問題だったので、正答率が高いものが多かったです。ただ、(6)の硬貨の支払い方の場合の数の問題は苦戦した受験生が多かったようです。100円硬貨と500円硬貨の組み合わせを考え、それに10円硬貨の払い方分をかけるといいでしょう。少なくとも1枚は使うので、その中から0円となる場合を除くことを忘れずに。

2 水の入った容器間で水を移す問題です。

設定がやや複雑なので、混ぜ合わせる食塩水を図に表して整理するようにしましょう。

(1) はよくできていました。

(2)(3)は容器の比を求めるところから苦戦していたようで、正答率は高くありませんでした。

3 約束記号の問題です。

$10 \bullet 2$ は10を2回かけることを意味しており、 $10 \times 10 = 100$ です。

$5 \blacktriangle 3$ は5を3で割った余りを表しており $5 \div 3 = 1$ あまり2です。

(3)まで大変よくできていました。

4 昨年出題された問題の改題です。

過去問をしっかりと解き、練習してくれていた受験生は解けたのではないのでしょうか。

相似な三角形から長さの比を考える問題は定番なので、できなかった受験生はしっかりと復習して今後の試験に臨んで欲しいと思います。

1月12日の入試は大問が4題、全体的な小問数は20問前後と今回と変わりません。今回同様過去問の改題が含まれています。過去問を復習して臨んで欲しいと思います。試験中は解きやすそうな問題から解くようにしましょう。連日の試験で大変ですが、体調管理に気を付けて頑張ってください。

【社会】

〈 地理分野 〉

地理の学習を苦手とする生徒が多いように感じました。特に、以下の2題が顕著にその傾向が見られました。問3「大阪府」が正解です。府を記していない、阪の誤字、文字を丁寧に記していないので判別できないなどの失点がありました。こうしたケアレスミスによる失点をしないよう注意しましょう。問4 時差に関する出題でした。非常に正答率が低かったです。条件を踏まえて解答できなかった受験生が多かったようです。問題文を正しく読み解くことは今後とも必要です。問題文を正確に読み、条件にかなう解答を心がけましょう。

〈 歴史分野 〉

征夷大將軍、満州、後醍醐という受験生ならば知っている当然という語句・人物をさす表現ですが、誤字が非常に多かったと感じます。普段ひらがなで済ませていると勝負どころで成果をあげることができないものです。

問3は「国分」が正解でしたが、問題文をよく読みましょう。条件を考えて「東大」（寺）ではないと判断できなければならない問題でした。リード文・問題文を正しく読解しましょう。

1回目入試では豊臣秀吉、2回目入試では徳川家康を記述しましたね。3回目入試は……。その予想はハズレです。説明会でも予告しましたが、3回目の歴史分野は遺跡・歴史公園の出題となります。文章を読んで頭の中に地図をイメージしながら、学んだ歴史のことがらを正しく関連づけることができるよう、心の準備をしてください。

諸君の健闘を楽しみにしています。

〈 公民分野 〉

公民分野の正答率はおおむね高かったです。サミットの開催地名（問1）も、本文の「原爆慰霊碑」などのヒントからよく正答してくれました。ラーメン店をどこに出店すべきかの設問（問8）に関しても、家賃・人件費・光熱費の意味を理解していることがわかり安心しました。一方で、お店の面積と売り上げの関係を示した図の読み取り問題は、若干正答率が下がりました。縦軸と横軸からグラフを読み解く力は算数でも必要でしょう。算数と同じように図を読み解くことができたはずですが、エシカル消費（問9）という新しい言葉は、受験参考書にはのっていないと思います。ですが、他の選択肢から消去法で選べたはずで、常任理事国に関する設問など、簡単な知識問題を手早く解答して、読解力や思考力が問われている設問に時間をかけるようにしましょう。

【理科】

1 電熱線と電気回路についての問題でした。電熱線と電気回路の性質には、①電熱線の発熱量は加わる電圧と流れる電流がそれぞれ大きいほど大きくなる。②同じ長さの電熱線は太いほど抵抗が小さくなる。③直列回路では2つの抵抗を流れる電流が等しく、並列回路では2つの抵抗に加わる電圧が等しくなる。があります。これらを組み合わせて、発熱量の大きさを比べることができます。そして、発熱量が大きいほど焼き切れる時間が短いことを使って選択肢から答えを選ぶことができます。

2 アンモニアの発生とその性質に関する問題でした。

問1、問2 塩化アンモニウムと水酸化カルシウム(ともに白い粉末)を混ぜて加熱すると、アンモニアが発生します。このとき、水が発生するので、試験管の口の方を低くして、加熱部に水が流れていかないようにします。またアンモニアは空気より軽く、水に非常に溶けやすいので、上方置換で集めます。

問3 アンモニアは無色で鼻を刺すようなにおいをもつ気体で、水溶液はアルカリ性を示します。

問4 問題文より、過不足なく反応する場合、水酸化カルシウム7.4gに対しアンモニアは3.4g発生することがわかります。よって、求める値を x とおくと $7.4 : 3.4 = 11.1 : x$ より $x = 5.1\text{g}$ と求められます。

問5、問6 題材は「アンモニアのふん水」と呼ばれる実験で、アンモニアの水にとけやすい性質を利用しています。前述の通り水溶液はアルカリ性となるので、フェノールフタレイン溶液を加えた水は赤色を呈します。

3 中学受験では定番の「ヒトのからだと消化」に関する問題でした。口から入った食物が、からだのどの消化器官を通過していくかは、わかっている人も多いようですが、どこの器官で、どの栄養素が、何という酵素によって、何という物質に分解されるかということまで、細かくおさえておきましょう。今回は記号選択の問題を多くしましたが、中学受験生であれば、物質や酵素の名前は、しっかりと言葉で書けるように準備しておきたい内容です。今回漢字で出題した「消化管」については、「器官」の「カン」との漢字間違いに注意しましょう。

4 化石や地層に関する問題でした。

前半は教科書を中心とした基本的な問題です。後半は「人新生」という時事的な問題でした。1950年頃から化石燃料の廃棄物やマイクロプラスチックなど人類が生み出したものが地層に堆積し始めました。理由は道路整備が進み産業が大きく発展したからです。それにより今までの地層からは見つからなかったものが現在発見され始めています。今までの地質年代とは違うとなったことで人新生という新しい年代が検討され始めたのです。